

## 文化部活動の地域移行に関する検討会議における検討事項（案）

## 0. 検討に当たって

- 部活動改革については、以下の中教審答申を踏まえ、スポーツ、文化ともに、まずは、令和5年度以降、休日の部活動の段階的な地域移行を図ることとしている。

部活動は必ずしも教師が担う必要はないことを踏まえると、～（略）～学校や地域住民と意識共有を図りつつ、地域で部活動に代わり得る質の高い活動の機会を確保できる十分な体制を整える取組を進め、環境を整えた上で、将来的には、部活動を学校単位から地域単位の取組にし、学校以外が担うことも積極的に進めるべきである。 中央教育審議会『新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について（答申）（平成31年1月25日）』（抄）

- 運動部活動、文化部活動に共通しての課題も多いことから、スポーツ庁において開催されている「運動部活動の地域移行に関する検討会議」の動向を踏まえ、特に文化部活動における課題を中心に、文化庁において昨年度行った「地域文化倶楽部（仮称）の創設に向けた調査研究」も参照しながら検討を行う。

- まず、「運動部活動の地域移行に関する検討会議」の検討事項に沿って、文化部活動の固有の課題がある項目を洗い出す。

## 1. 文化部活動改革の目的・目標

- 文化部活動の改革は、学校の働き方改革への対応とともに、中学生をはじめとする青少年にとってふさわしい文化芸術に親しむ環境を実現するためのものである。文化部活動に所属していない生徒も含め、中学生にとってふさわしい文化芸術に親しむ環境はどのようなものが考えられるか。
- 文化部活動を地域に移行することにより、地域における文化芸術の振興の観点から、どのような効果が期待できるか。

⇒目的・目標については、働き方改革への対応、中学生にとってふさわしい文化芸術に親しむ環境を実現するという点で共通と言える。

ただし、地域で文化芸術に親しむ環境は、スポーツと相違点大きいと考えられる。よって、地域における文化芸術に親しむ環境の整備という観点が、まず論点となる。

## 2. 地域移行する前の文化部活動の在り方

- 現在の文化部活動の様々な課題に対処するとともに、着実な地域移行に向けて、地域移行前の段階から文化部活動を改善していく必要があるが、活動内容や活動時間等について、どのように改善すべきか。
- 学校の働き方改革に対応するとともに、適切な指導体制を整えるため、教師が文化部活動の指導や大会等の引率をするという現行の在り方を抜本的に改めていく必要があるが、文化部活動の指導や大会等の引率の体制はどのようにしていくべきか。特に部活動の指導を望まない教師が部活動に従事する必要のない体制をどのように整備していくか。

⇒移行前の部活動の在り方については、共通認識を持ちつつ、固有の課題を検討する。

## 3. 地域への移行の在り方

- 地域や学校によって状況が異なる中、着実に文化部活動の地域移行を進めるためには、どのような方策が考えられるか。
- 中学生をはじめとする青少年にとってふさわしい文化に親しむ環境の実現のため、地域での活動の参加者、活動内容・種目、活動時間等はどうか。
- 地域移行の達成時期について、いつを目標とすることが適切か。

⇒達成時期については共通に進める必要があるが、地域で文化芸術に親しむ環境の構築については、スポーツと異なるため、個別の検討が必要となる。

## 4. 文化部活動の地域での受け皿

- 文化部活動を地域に移行する際の受け皿として、都市部と地方部では状況が異なることや生徒のニーズが多様であること等も踏まえ、どのような組織・団体等が考えられるか。
- 受け皿となる組織・団体等を整備、拡充し、またそれらの組織・団体等が安定的、継続的に運営できるようにするためには、どのようなことが考えられるか。
- 地域移行する際や、移行後において、各市町村の文化振興担当部局や受け皿となる組織・団体、学校等が緊密に連携していくためには、どのような方策が考えられるか。
- 受け皿となる組織・団体等への財政支援の在り方は、どのようなものが考えられるか。

⇒スポーツと文化においては、地域に移行する際の受け皿となりする組織・団体等の状況、文化振興担当部局との連携など、状況が異なるため、個別に検討する必要がある。

## 5. 指導者

- 指導者として、どのような人材が考えられるか。
- それらの指導者をどのように確保、育成していくか。
- 指導者には、分野に関する専門的な知識や教育者としてふさわしい資質が必要となるが、指導者の質をどのように保証していくか。
- その分野の専門的な知識や経験があり指導を希望する現職の教師が兼職兼業の許可を得て円滑に地域で文化芸術に親しむ活動を指導できるようにするためにどうすべきか。また、その際に所属校での教師としての本来業務へ影響が生じないようにし、また心身に過重な負担とならないようにするため、どのようなことに留意すべきか。

⇒専門的な知識については、それぞれ異なるが、教育者としてふさわしい資質が必要となるという観点は、運動部、文化部活動ともに共通の課題となる。  
兼職兼業などの制度的な枠組みは共通の課題と考えられる。

## 6. 施設

- 地域で文化芸術に親しむ活動を実施する場をどのように確保していくか。
- 施設を円滑に使用するため、行政や各組織・団体、学校等の間においてどのような調整・連携の在り方が考えられるか。
- 文化部活動の地域移行を進めるとともに、地域で文化芸術に親しむ環境を改善するため、学校施設の有効活用の在り方として、どのようなことが考えられるか。

⇒学校施設の有効活用の在り方は共通の課題となるが、施設の活用状況が異なると考えられるため、個別の検討が必要となる。

## 7. 大会

- 地域における文化芸術に親しむ活動参加者の成果発表の場及び実力を競い合う場として、主催者や規模、参加資格、大会形式等について、どのような在り方がふさわしいか。
- 持続可能な大会開催のため、運営スタッフをどのように確保していくか。
- 既存の全国大会について、どのような在り方がふさわしいか。

⇒共通の課題のもと、個別の検討が必要となる。

## 8. 会費

- 適正な額の会費を保障するため、どのような方策が考えられるか。

○経済的に困窮する家庭の生徒への支援として、どのような方策が考えられるか。

⇒共通の課題と考えられる。

## 9. 保険

○地域における文化芸術に親しむ活動に安心して参加できるよう、指導者や参加者が加入する保険として、補償内容や保険料等について、どのようなものがふさわしいか。

○指導者や参加者に保険の加入を義務付けるべきか。

⇒共通の課題と考えられる。

## 10. 関連諸制度等の見直し

○文化部活動の地域移行に向けて、学習指導要領における部活動に係る規定や入学試験、教員採用における位置づけ等について、どのように見直すべきか。

⇒共通する制度面の課題となる。地域における部活動の姿を受けて、必要な見直しを行うこととなる。